

2002市民オケ・フェスタ in Kasugai

オペラってなに？

演奏会形式による まだん **魔弾の射手** しゃしゅ

名古屋市民管弦楽団
春日井市交響楽団



2002年 8月25日(日)午後3時開演
春日井市民会館

主催 春日井市・(財)かすがい市民文化財団
後援 春日井市教育委員会・中日新聞社・中部大学

ごあいさつ

本日は2002市民オケ・フェスタ in Kasugai「オペラってなに?」によるご
そお越しくございました。

この演奏会はいわばクラシック音楽の入門講座であり、初めてオペラに触
れる人にも分かりやすく楽しめるものとしてお贈りします。今回は、指揮を春
日井市民第九演奏会でおなじみのアレキサンダー・ドゥルカー氏にお願いいた
しました。ヨーロッパの主要劇場でコンサートやオペラの指揮者として活躍
している氏の、素晴らしい音楽を感じることができると考えております。また、
ソリストもそうそうたるメンバーが揃い、本格的なオペラとしても楽しめるよ
うな見応えのある演奏会です。演奏は地元を中心に活動している名古屋市民管
弦楽団と春日井市交響楽団が共演し、オペラを盛り上げます。また、この演奏
会のために結成された春日井オペラ・シンガーズ(ピンク・エコー)も参加します。

そして、司会と解説を、分かりやすい説明で定評のある都築正道氏にお願
いいたしました。解説を聞けばさらにオペラへの関心が高まり、本日のコンサ
ートが一層楽しく感じられることでしょう。

この体験が、オペラへの世界の扉を開く鍵となれば幸いです。

それでは、魅力あふれるステージをどうぞご鑑賞ください。

2002年8月25日

春日井市

財団法人かすがい市民文化財団

Q オペラってなに?

A オペラは、なんでもありの「総合芸術」です。オペラはイタリア語で、
「作品」のことです。古くは「オペラ・イン・ムジカ」(音楽作品)とい
っていたのですが、頭の言葉だけが残りました。オペラはちょうど1600
年にイタリアのフィレンツェで生まれました。オペラが「総合芸術」と
いわれるのは、音楽と演劇と文学と美術と建築と装飾品と彫刻と思想
と哲学と歴史と宗教と経済と政治と平和と戦争など、この世にある、あ
りとあらゆる物質と精神と事件で出来ているからです。それに、オペラ
には、私たちの心の動きのすべてがあります。愛と希望と思いやりと憎
しみと絶望と情熱と不安と期待と恐れです。さあ、このウェーバーの
歌劇《魔弾の射手》にある、ありとあらゆるものを感じてください。そ
して、笑い、泣き、感動し、怒ってください — それが、オペラです。

魔弾の射手

Der Freischütz

—三幕のロマン的歌劇—

- [原 作] ヨハン・アウグスト・アーベルとフリードリヒ・ラウンの共著による『怪談集』(1811)
- [作曲者] カール・マリア・フォン・ウェーバー(1786-1826)
- [台 本] フリードリヒ・キント(1768-1843)
- [作曲年] 1817-1820(31-34歳)
- [初 演] 1821年6月18日ベルリンの王立劇場
- [配 役] ボヘミアの領主オットカール侯爵 : 加藤正裕(バリトン)
侯爵領の世襲森林保護官クーノ : 友森美文(バリトン・二役)
クーノの娘アガーテ : 小林史子(ソプラノ)
アガーテの従姉妹エンヒェン : 内田恵美子(メゾ・ソプラノ)
若い狩り場監視人カスパール : 片桐直樹(バリトン)
若い狩り場監視人マックス : 松本薫平(テノール)
隠者 : 松下雅人(バス)
裕福な農民キリアン : 友森美文(バリトン)
花嫁につきそう4人の少女 ; 近藤義子・青山亜紀子・毛利美奈子
服部普子(ソプラノ)
悪魔ザミエル : 都築正道(台詞役)
- [演 奏] 音 楽 監 督 : 都築正道
指 揮 : アレキサンダー・ドゥルカー (Alexander Drcar)
オーケストラ : 名古屋市民管弦楽団+春日井市交響楽団
合 唱 : 春日井オペラ・シンガーズ (ピンク・エコー)
副 指 揮 : 加藤完二
コレペティートル : 甚目裕夫
- [楽器編成] 2管編成 : ピッコロ・フルート2・オーボエ2・クラリネット2
・ファゴット2・ホルン4・トランペット2・トロンボーン3・
ティンパニ・弦5部
- [時 所] 三十年戦争(1618-1648)の終結直後
ボヘミア
- [構 成] 上演時間 3時間(春日井公演 2時間 20分)
前奏曲(10分) ポプリ序曲
第1幕(50分) 森の入口の酒場の前
第2幕(50分) [第1場] 森林保護官クーノの館
[第2場] 狼谷(春日井公演では省略)
第3幕(50分) [第1場] 森の前広場・ [第2場] アガーテの部屋
[第3場] 森の射撃大会



物語と音楽

1 序曲

ポプリ序曲 あらゆる歌劇の序曲の中でも最高に素晴らしいものの一つです。ゆっくりとした「序奏」で始まります。金管のホルンが堂々とおなじみの「秋の夜半の」(森の動機)を演奏します。カスパールが魔弾を作るためにザミエルを呼び出す歌【悪魔ザミエルの動機】がつづきます。そして、マックスのアリア「森を抜けて」の【絶望の動機】と狼谷での「嵐の音楽」になり、穏やかな音のクラリネットがそれを受けてマックスのアリアの主題を吹きます。アガーテのアリア「あの人を知るまでは」がそれにつづき、アガーテの愛が最後に勝利をおさめることを暗示して序曲は終わります。

第1幕 森の入口の酒屋の前広場

2 導入部

開幕の合唱 幕が開くと途端に大きな銃の音がして標的が落ちてきます。みんなが「勝った、勝った(ヴィクトーリア)」と歓声をおげます。「射撃の試合」が終わって、優勝はお金持ちの農夫キリアンと決まりました。射撃のプロの狩人マックスを見事に負かしたので、農民たちは彼をからかいます。「ヘッヘッヘ」と笑う農民たちの愉快な合唱です。マックスもついに腹を立ててあわや喧嘩になろうとするとき、森林保護官クーノが大勢の狩人を従えてあらわれます。彼は二人の喧嘩を止めて、村人たちが前から訊きたかった「射撃試験」について、その由来を話します —

クーノの話：「ある日の狩りで、犬たちが一頭の大きな鹿を追い出した。その鹿の背には森の密猟者が罰のため鎖でくくられていたのだ。お殿さまは、『だれでも、あの罪人を傷つけずに鹿だけを倒したものは、森林保護官に任じ、森の館を与えよう』とおっしゃった。私のご先祖さまは、鹿を撃ち密猟者助けた。お殿さまは大変喜ばれて、お約束通りのことをなさった。悪い奴がいてお殿さまに、「クーノは魔法の弾丸を使ったのです」と訴えたのだ。それでお殿さまは正義を守るために、ある規則をお作りになった。「クーノの後継者となるものは、統治する領主かその代理人の命ずる方法によって、前もって『射撃試験』に合格すること」。また、「若い鑑守官はその日に自分の選んだ娘と結婚するがその娘は処女の花嫁の冠をつけていなければならない」とされたのだ。

3 マックスのアリア「森をぬけて」

古典的なアリア ここでマックスが有名な「絶望のアリア」を歌います。なぜ、あれほど名人であったマックスの腕が突然落ちたのか、彼自身にも全く分かりません。このままでは明日の射撃試験は失敗です。そんなことになれば、世襲森林官の座よりも、愛するアガーテを失うことを恐れます。そのために、このアリアの中ではアガーテという名前が極めて感情的に美しく歌われます —

森を抜け野を越えて、心も軽く歩んだものだった。私の目にとまるものはどれも銃の餌食だった。多

くの獲物を持ち帰り、獣を殺す私をとがめながらも喜んでくれたのは、アガーテの愛の眼差しだった。神は私を見捨てたのか。

あの人は窓を開いて、足音に聞き耳をたてる。「良い知らせを持ってくる」と木の葉がざわめくと、私の足音だと思おう。喜びで飛び上がっても、木々の愛の挨拶だけ。だが闇の力が私を襲う絶望と嘲りが私を掴むこの闇に光は射さぬのか。運命が支配するのか神は全くいないのか。絶望と嘲りが私をつかむ。

悪者登場 クーノの狩人の一人カスパールはマックスの先輩ですが、幸せな人たちをねたむ悪い男です。マックスの最近の失敗はすべて、カスパールが悪魔のザミエルに頼んで仕組んだ罠でした。彼は悩んでいるマックスに酒をすすめて歌います。

4 カスパールの「酒の歌」

このむなしい世の中で、葡萄の木に葡萄がならなければ、苦しみと悩みしか残らない。バッカスに信仰を捧げよう。一は一で、三は三。だから葡萄酒のほかに二つのものを加えよう。カルタ遊びにさいころ遊び。豊かな胸の女の子。これが長生きの薬なのだ。この三つがなかったら、この世は闇だ。小さな酒瓶は俺のお手本。娘が祈祷書なら、カルタはバイブルさ。

マックスは、カスパールのいうままに狼谷で魔法の弾丸を悪魔からもらう約束をします。一人残ったカスパールは、「復讐のアリア」を歌います。

5 カスパールの復讐のアリア

黙ってる、誰も邪魔をしないように。地獄の網はお前にかみつけた。奴を闇でくるめよもう。奴はお前の鎖を引きずっているぞ。勝った、勝った。仇は討ったぞ!

「トリウムフ!(勝った!) トリウムフ!」と叫ぶカスパールの勝利の歌が舞台一杯に響いて、第一幕の幕がおります。



第2幕 森林保護官の森の館

二人の娘 夜です。森林保護官の森の館です。クーノの娘アガーテと従姉妹のエンヒェンは、明日のマックスの射撃試験の合格に備えて結婚の支度をしています。エンヒェンは、ふさがちなアガーテをなぐさめるために恋の歌を歌います。

6 エンヒェンのアリエッタ

美しい髪をして、目が輝いて、赤い頬、すらりとした若者がきたら、伏し目がちに見るの。目と目が出会ってもあわてはしないわ。その人は言うわ、「美しい!」。私はこたえます、「私の愛しい人」。そして二人は花嫁・花婿。さあ、みなさん、もっところちへ来て美しい花嫁を見て下さい。素敵な花婿を見て下さい。

7 アガーテの「祈りのアリア」

恋する少女の祈り でもアガーテの心は晴れません。「マックスになにかが起ったに違いない」と神に祈ります。延々8分にもおよぶ長大なこの「アガーテの祈り」は、この歌劇の中でも、最も重要で、最も完成度が高く、恋する乙女の清らかな思いと美しい夜空を見事に歌ったアリアです。

あの方をまだ知らないときは眠りは容易に訪れたのに。恋は苦しみと手を携えてやってくるのね。なんて美しい夜でしょう。静かに、静かに。敬虔な調べよ。星の世界にまで昇り、歌よ、響き渡れ!

私の祈りよ、天にまでとどけ。愛する人はどこにいるの。聞こえるのは、縦の小枝のさざめきだけ。夜鶯とコオロギだけが、夜風を楽しんでいるわ。

聞き違いかしら、そこで人の足音がしたみたい。縦の木の間から、彼が来るわ。愛の旗よ、ひるがえれ!

あなたを愛する者が、夜遅くまで待っているのよ。神さま、月の光があざむかなければ帽子の花飾りが見えるはずよ。射撃に勝ったのね。明日の幸せを知らせるもの。希望と勇気がわいてくる。鼓動が高鳴って、心が騒いでいます。あの人を優しく迎えたい。幸運がまたあの方にめぐってくるように。神よ感謝の涙をお受け取り下さい。その証に希望を下さい。

8 三重唱

マックス登場 そこへ、突然、マックスが入ってきます。喜んで迎えるアガーテ。「遅くまで起きていてくれたのなら謝るよ。でも、すぐに狼谷へ出かけなければならない」とマックスは言います。アガーテとエンヒェンは心配になり、マックスをとめます。激しい、三重唱になります。「間もなく月が光を失う。運命が私をさらっていくのだ」と叫んで、マックスはとめる二人を振り切り、狼谷へと急ぎます。

9 第3幕への間奏曲

オーケストラによる間奏曲です。おなじみの「狩人の合唱」のメロディが4本のホルンによって響きます。この間に舞台は、良く晴れた翌日のお昼の森へと変わります。

第3幕 森の館と酒屋の前広場

10 アガーテのカヴァティーナ

森の館では、不安を胸にアガーテが一人祈ります。雲にかくれていても、太陽は空にとどまっています。そこでは聖なる意志が支配していて、世界は暗闇ではありません。清らかなまなざしが永遠に愛するものを見つけています。父なる神は私も見えてくださるでしょう。

11 花冠の歌

村の娘たちがお手伝いにやってきて、「花冠」の歌を歌いアガーテの結婚を祝います。

あなたに花嫁の花冠を編みましょう一緒に踊りましょう。美しい緑の、美しい緑の花嫁の花冠! すみれ色の絹で結んだ、美しい緑の花嫁の花冠!

12 狩人の合唱


射撃試験の用意が出来ました。狩人たちは領主さまを讃えて、乾杯の歌を歌います。これが有名な「狩人の合唱」です。

この世で狩人の楽しみにまさるものはなにか? 生命の杯はだれに溢れ出るか?

角笛が響き、野山を走り、藪や池を抜けて鹿を追うことは豪華な喜びであり、男の欲望だ。ヨーホー、トラララララ!

13 フィナーレ

幸福な結末 射撃試験が始まりました。領主はマックスに、「あの枝にとまっている白い鳩を撃て」と命じます。アガーテが「撃たないで。鳩は私です」と飛び出してきました。鳩が驚いて、カスパールが隠れている隣の枝に飛びます。それを目がけてマックスが撃つとアガーテが倒れ、カスパールが木から落ちてきます。「アガーテが撃たれた」「カスパールも撃たれた」と人々は驚きます。森の隠者が現われて、気絶しているアガーテを抱き起こします。カスパールは悪魔を呪いながら死んでいきます。事情を聞いた領主は、後悔するマックスに村から去るよう命じます。隠者はマックスに1年間の猶予を与えることを領主に約束させて、全員の合唱の内に、すべてめでたしめでたしで終わります。(都築正道)

 より詳しい解説は、本日会場で発売の「魔弾の射手への招待」でどうぞ。

オーケストラの団長からごあいさつ

本日は、ようこそおいでくださいました。二つの市民オーケストラが一緒になって、海外から優れた指揮者を招き、国内の最高級の歌手と合唱団と共に、名作オペラをみなさまの前で共演することはアマチュア・オーケストラの夢です。春日井市の「市民オケ・フェスタ in Kasugai」という素晴らしい企画に感謝する由縁です。では、私たちの友情の証であるこの真夏の「熱演」をお聴き下さい。

名古屋市民管弦楽団団長 成瀬治興
春日井市交響楽団団長 花村浩克